

第1課 パウロとローマ

安息日午後 今週のテーマ 歴史的背景

弟子たちに聖霊が下り、居合わせたローマ出身の旅人が救い主を受け入れ、ローマに福音を広めたのではないかと、といわれています。パウロはまだ見ぬそんな兄弟たちに手紙を書きました。

日曜日 年代と場所

Q. パウロはこの頃、初代教会の必要にどのように応えようとしていますか？

- A. 他の手紙では、パウロはそれぞれの教会が持つ具体的な問題解決に多くの内容を割かざるを得ませんでした。しかしこの書簡では、**思い切り福音の真髄を表現することができました。**
- A. パウロは「間違った教え」に悩む教会を見てきました（ガラ1:6）。そこで、何がイエス様の教えであり、福音であり、真理であるのかを前もってこの若い教会に告げるのです（**予防薬の働き**）。
私たちにとっても、キリストの福音を正しく学ぶために、この手紙はたいへん有効な書簡です。

月曜日 個人的な接触 ローマ 15:20~27

Q. この時持っていたパウロの計画は何ですか？

- A. 遠くイスパニア（スペイン）に行くこと。当時イスパニアは文明世界の境界線とされていました。
- A. エルサレムに行くこと。貧しいユダヤ人の援助の約束を果たすため（ガラ2:10）。エルサレムでキリストを信じることは神殿に関わる仕事を失い、職をなくすことを意味していました。

Q. ローマ 15:20~27 の中に書かれているパウロの奉仕の特徴は？

- A. パウロは自分がそれを行ったとは語らず、キリストが自分を用いてくださったと語ります。
私たちが無条件に自らを聖霊に奉げるなら、聖霊はどれほど素晴らしいことをなさるでしょう！

火曜日 パウロ、ローマに到着する 使徒 28:17~31

Q. 使徒 28:17~31 からどんな教訓を学ぶことができますか？

- A. パウロはユダヤ人を第一にしながらも、ユダヤ人はイエス様を拒みます。ただその結果、異邦人のための門が開かれました。すべてのものを操縦する舵の上には神様の御手が置かれています。

水曜日 「聖なる者」となる ローマ 1:7

Q. ローマ 1:7 からどんな教訓を学ぶことができますか？

- A. ローマ 1:1~7 に「召す」という言葉が3度用いられています。人が互いに分かり合い、交わりを持つことは、神様の「召し」によって初めて可能となります。私たちの交わりは、キリストの福音が、恵みが仰ぎ見られるときにのみ確立するのだと思います。
- A. 「**神に愛され**」とは、愛される資格のない者が愛されているということです。「**聖なる者**」とは、資格のない者が主の御用のために用いられるということです。「**聖なる**」とは目的を意味します。

木曜日 世界的評判 ローマ 15:14

Q. ローマ 15:14 からローマの教会はどのように描写されていますか？

- A. 「**善意に満ち**」とは、日常生活に表された御言葉の実現、愛の交わりです。
- A. 「**知識で満たされ**」とは、人々の善意と愛が、御言葉の知識から生まれているということです。
- A. 「**互いに戒め合う**」とは、小グループの中で互いの必要が満たされ、励ましあっていることです。

ローマの教会は果たしてこのように素晴らしかったのでしょうか？おそらく、いろいろな問題を抱えていたと思われます。自分たちの足りなさを覚えながらも、「わが子よ、あなたを支配しているのは罪ではない！あなたは神が支配する神の子だ！」と評価なさる神様の信頼、神様の確信の中に、彼らは新しい自分たちを発見したのだと思います。